

■加藤完治 農民指導者。学校創立し独自の農本主義で青年教育、満蒙開拓移民も教育指導し、“農本主義の権化”。

かとうかんじ

秩父事件・・・1884＝ 旧平戸藩士で維新後炭問屋をして裕福であった家の長男として東京市本所に生れた。父は出生前に死去。

帝国大学始・・・1886＝ 2歳：祖父も死去し、祖母、母と叔父のもとに世話になった。

幼少時代は病弱で、手がかかった。

帝国憲法発布1889＝ 5歳：

郡司千島探検1893＝ 9歳：

日清戦争始・・・1894＝10歳：母が再婚。

Bushidou・・・1899＝15歳：家業を継ぎたくなかったため、叔父に説得してもらい、府立一中に入学した。武士教育を受け、儒教精神に固まった叔父のしつけは厳しかった。また、母の再婚した夫が結核に倒れ、その生活が極貧状態となったが、気丈な母はゆらぐことなく、尊敬の念を抱く。

教科書疑獄・・・1902＝18歳：

日比谷公園・・・1903＝19歳：第四高等学校に入学。

日露戦争始・・・1904＝20歳：母と祖母が相次ぎ死去して衝撃、アメリカ人宣教師との出会いでキリスト教に傾斜、仏教にもなじみ、

日露戦争終・・・1905＝21歳：

満鉄発足・・・1906＝22歳：親戚の娘を見初めて恋愛。東京工科大学に入学したが、
3年間も休学するという大病にかかり、

伊藤博文暗殺1909＝25歳：農科大学に編入。

今度は娘が不治の病に倒れ、叔父から結婚を反対されたが、

大逆事件判決1911＝27歳：卒業後、初志を貫徹し、結婚。帝国農会や内務省に勤めたが、

明治天皇没・・・1912＝28歳：妻を失ったこともあって、人生問題に悩んで農民と生きる決意をし、農本主義者山崎延吉が校長であった愛知県立安城農林学校に赴任。

第一次大戦始1914＝30歳：略血し、衝撃の果てに、新たな精神上の脱皮をとげた。その後生涯をともにする美代夫と再婚。

21ヶ条要求・・・1915＝31歳：*推薦されて、山形県立自治講習所の初代所長に転じ、

独自の教育方法で中堅人物を養成し、広大な農地の開拓も進める。

大暴落・・・1920＝36歳：

原敬首相暗殺1921＝37歳：

治安維持法・・・1925＝41歳：欧米に出張の後、

円本時代始・・・1926＝42歳：退職し、石黒忠篤らのすすめで、茨城県友部町に日本国民高等学校を創立、

金融恐慌・・・1927＝43歳：*開校後、校長となり、超国家主義者寛克彦の古神道による農本主義思想教育を推進。

世界恐慌・・・1929＝45歳：

満州事変・・・1931＝47歳：満州事変が勃発すると、

五一五事件・・・1932＝48歳：中国侵略に伴う満蒙開拓の移民に力を注ぐ。

帝人疑獄事件1934＝50歳：農本主義の権化といわれ、この年の「日本農村教育」などの著書がある。

日中戦争始・・・1937＝53歳：

健保+総動員1938＝54歳：*満蒙開拓青少年義勇軍発足とともに、その中央訓練所(同県東茨城郡内原町)の所長を兼ね、

約22万人を派遣した。

日米開戦・・・1941＝57歳：

敗戦・・・1945＝61歳：*敗戦で、A級戦犯容疑もGHQが日本の再生に必要と判断して免れたが、公職追放となり、

新憲法施行・・・1947＝63歳：

独立回復・・・1951＝67歳：追放解除後、福島県に入植、白河報徳開拓農協組合長、

TV放送始・・・1953＝69歳：退職し、日本高等国民学校(日本国民高等学校を改称)の校長に復帰したが、
志し半ばで高血圧で倒れ、以後、療養生活を送って、

国連加盟・・・1956＝72歳：

安保闘争・・・1960＝76歳：

大学紛争始・・・1965＝81歳：

美濃部都知事1967＝83歳：没した。